



彦島八幡宮 宮司ニユース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 令和七年 八月二十一日

◇宮司の柴田です。家の宗旨、なんのこと

かおわかりになりますでしょうか。いわゆる、亡くなった方をお見送りする一連の儀式、お葬式をいかなる宗教で行うかということですが、

少数派ですが、私の家を含め「神道家」、「神徒」と

いう家の宗旨が神道というお家がございます

す。お盆の時期になりますと、「中元祭」と

いうご先祖様をおしのびするお祭りを斎行し

ます。その中元祭の祭詞の冒頭には、「残の

暑さ厳しき折節」と奏上します。現代文に

直しますと、「残暑ことのほか厳しき季節」ということです。八月七日は、「立秋」でした。

暦の上ではすでに秋なのでありますが、秋の到来が待ち遠しい酷暑の日々であります。

◇ところで、なぜ、人々は、お盆に、実家に帰

り、お墓詣りをして、御先祖様をお偲びするの

でしょうか。前述の中元祭も、まさしく、御

先祖様に感謝し、これからの安寧を祈願するお

祭りです。人は、死後も靈魂となつてこの世

にとどまり、家族のもとへ帰ってくるという

「祖霊信仰」の影響が大きいのではと考えます。

民俗学者の柳田國男さんは、「死者は生者を

守護する、それが先祖という存在の根底にある」と

述べられています。日本では、死者を「仏

さん」と呼びますが、他の仏教圏にそのよう

な例はないそうです。ここにも、日本古来の

祖霊信仰が、うかがえるのではないのでしょうか。

◇解剖学者の養老孟司さんは、「人は、亡骸にな

つて死を迎えるのではなく、その人を知っている人が、この世から一人もいなくなった時に初めて、死を迎える」、これが、日本人の死生観だとおっしゃいました。お盆は、生者と死者との

間の魂の交感であり、親や親族、子供とのつながり、家そのもののつながりを再確認する瞬間なのです。

◇今年は、終戦八十年という節目の年でもあります。私は、終戦記念日が八月十五日である

ことは、日本人にとつて僥倖であつたと思

います。日本人が、けつして忘れてはならない

日が、祖霊信仰のお盆の日に重なっているわけ

ですから。軍人さん、軍属さん、民間人含め

て三十万人もの尊い命が失われました。今

を生かされている私共は、その無念や悔しい思

い、家族への思い、平和への思いを忘れずに、

次の世代にも継承していくことが大切です。

◇鎌倉時代の随筆に、「枕草子」と共に日本随筆

文学の双璧といわれる吉田兼好が書かれた、二

百四十三段からなる「徒然草」があります。そ

の「徒然草」の中に、「されば人 死をにくばば

生を愛すべし 存命の喜び日々に楽しまざら

んや」と書かれています。生命は有限、限りがあり、その有限の生を無限にかえしめるものが祖霊信仰でもあります。死はいずれやってくる、避けられないものではあります、すぐであれはこそ、今を大切に生きなさいと諭されているのです。「生中死 死中生」、祈りを

捧げ、生かされている者、死者も「浄化」され、

やがて、「昇華」されていく、これが、日本人の

死生観でもあり、日本人の根源的な宗教観、「存

命の喜び」なのではないでしょうか。「存命

の喜び」に感謝の心を忘れず、生かされて活き活きと暮らしたいものです。御自愛をお祈り申し上げます。

◇七月の祭典行事報告

▼月次祭 *七月一日、七月十五日

▼貴布禰神社月次祭 *七月一日

▼六連島七社祭 *七月九日

▼竹の子島天満宮例祭

*七月十五日

▼田の首八幡宮夏越祭

*七月二十日

▼朝粥会 *七月二十一日

▼六連島八幡宮夏越祭

*七月二十五日

▼夏越祭

*七月二十九日～三十日



▼惠美須神社夏越祭 *七月三十一日

◇八月の祭典行事報告(予定も含む)

▼月次祭 *八月一日、十五日

▼貴布禰神社月次祭 *八月一日

▼まほろば学級 *八月三日



▼平和祈願祭 *八月十五日

◇八月の宮司動静(予定も含む)

▼神社関係団体

◆早起会参拝

*八月一日

▼神社庁関係

◆美祢神社総代会総会

*八月四日

◆周南支部総会

*八月二十八日

▼神職養成講習会

◆開講式

*八月十二日

◆神社神道概説II講義

*八月二十一日～二十二日

▼講演活動

◆美祢神社総代会総会にて講演

*八月四日

▼自治会、学校関係、人権相談員、その他

◆しものせき木鶏クラブ

*八月一日

◆防火管理者再講習

*八月八日

◆迫町自治会盆供養

*八月十一日

◆人権擁護委員会男女共同参画委員会

*八月十九日

◆迫町自治会役員会

*八月二十日

◆玄洋校区小中合同学運協

*八月二十日

◆玄洋校区小中合同学運協

*八月二十日